

重度・重複障害のある子どもの教科指導と自立活動の指導の関連

－ 国語と自立活動の関連に着目して －

○西村 大介 (長崎県立諫早特別支援学校) KEY WORDS: 教科指導
 一木 薫 (福岡教育大学) 自立活動
 古川 勝也 (西九州大学) 重度・重複障害

I 目的

重度・重複障害のある子どもは、発話や書字による意思の表出が困難な場合がある。そこで、特別支援学校では、それらの障害特性に応じた手立てを講じながら、国語の指導を行っている。また、特別支援学校学習指導要領においては、各教科等の指導と密接な関連を図りながら、自立活動の指導を行うことが明記されている。そこで、本研究では、重度・重複障害のある子どもの1年間の国語及び自立活動の指導における変容に基づき、教科指導と自立活動の指導の関連を図った成果について考察することを目的とした。

II 方法

(1) 対象児の国語の実態及び指導目標の設定

小学部1年生の男児 A。自立活動と知的障害特別支援学校の教科の小学部1段階を中心に学ぶ。A 児の国語の実態と指導目標(一部抜粋)を Table1 に示した。

Table1 A 児の国語の実態と指導目標

	実態	指導目標
聞く	呼ばれると、視線を返すことはあるが、耳を押さえてうつぶんでいることが多い。	「ください」や「とって」などの言葉かけに応じて、教師に玩具を手渡すことができる。
話す	発声はあるものの、意味のある言葉の表出はできず、音声を模倣することもない。	簡単な単語を発して、教師に要求を伝えることができる。

(2) 対象児の自立活動の実態

自立活動の各区分に照らし合わせて把握した A 児の課題間の関連及び国語の学びにくさとの関連を Fig. 1 に示した。

(原因→結果、⇄相互に關係)

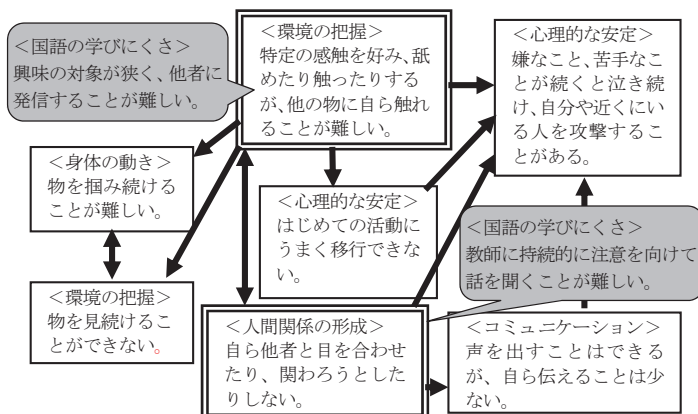


Fig. 1 A 児の自立活動の課題と国語の学びにくさの関連

(3) 自立活動の指導目標と具体的な指導内容の設定

A 児は、特定の物に対する興味が強く、それ以外の物へ興味を広げていくことが難しかった。また、他者からの関わりに対して、瞬間的に注意を向けることはあったが、自ら関わることはほぼ見られなかった。そのため、発声はできるものの、うまく自分の気持ちを周囲に伝えることができず、心理的に不安定になると考えられた。

そこで、特定の教師との人間関係を築くことを中心に、「教師の言葉かけに応じて、姿勢を保ったり、手足を操作したりすることができる」という目標を立てて指導に取り組ん

だ。具体的な指導内容としては、①教師の言葉かけに応じて姿勢を保つ。②教師に向かって手すりを使った横歩きをする。③手元に注目しながら物を操作し、教師に手渡したり容器に入れたりする。

(4) 教科指導と自立活動の指導の関連を整理する手続き
 本研究における教科指導と自立活動の指導の関連を整理する手続きは Fig.2 のように考えた。

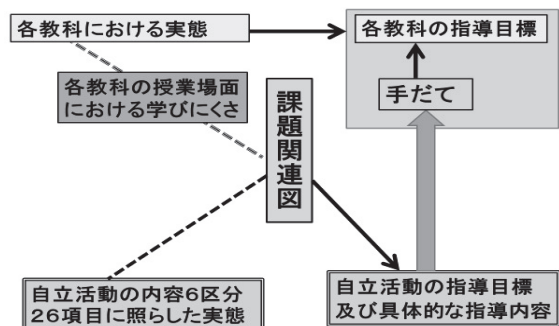


Fig.2 教科指導と自立活動の指導の関連

III 結果

(1) 自立活動の時間における変容

①教師の数唱を聞く間、起き上らずに臥位を保ったり、教師の手の動きに合わせて、手を同じように動かしたりすることができるようになった。②5m先にいる教師に向かって移動し、到達すると目を合わせて称賛を求めることができるようになった。③教師の言葉かけに応じ、玩具やボールに注目して操作し、やりとりができるようになってきた。また、学習中に教師の顔を覗き込むような仕草をしたり、自ら教師の腕に軽く触れたりするなど、人への関心の高まりも見られた。

(2) 国語の時間における変容

A 児の国語における変容(一部抜粋)を Table2 に示した。

Table2 国語における A 児の変容

	A 児の変容
聞く	呼ばれた時に振り返ったり、言葉かけに応じて2mほど離れた位置にある玩具をとってきて教師に渡したり、指示された位置に置いたりすることができるようになった。
話す	教師の後に続けて、3文字程度の単語を発して模倣しようとするようになった。また、教師の腕を引いたり、発声したりして欲しいものの要求ができるようになった。

IV 考察

自立活動の指導において人間関係を築きながら、物や人に対する興味を向上させたことで、国語の時間においていろいろな物や教師へ注目することができたり、指示を理解する力が高まったりする様子が見られた。人への興味が出てきたことで周囲の大人との関わりが増え、心理的に安定することもできつつある。自立活動の指導の変容が国語の力の向上につながったと考える。今後は、国語及び自立活動の学習評価を踏まえ、現在の国語の学びにくさと自立活動の課題間の関連を再度検討した上で目標を設定していく必要がある。

(NISHIMURA Daisuke ICHIKI Kaoru FURUKAWA Katsuya)